

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

圏域人口：49,674人
高齢者人口：12,229人
高齢化率：24.62%

当中東部圏域は吹田市に隣接した、南北、縦に長い地域となっている。圏域内高齢化率は南に下るほど、上昇する傾向にある。（寺内18.38%、緑地22.73%、北条25.05%、小曾根26.1%、高川27.59%、豊南32.6%）

相談は北3校区（寺内、緑地、北条）を本センター、南3校区（小曾根、高川、豊南）をサブセンター（分室）で受けている。

大きく南北に分けて地域の特徴を見ると、北部はマンション・戸建て住宅が多い。マンションに暮らす方は特に近隣との交流や情報交換が少なく、自宅内に閉じこもる傾向にあるため、廃用性のリスクも上がり要援護者が潜在している可能性が高い。また築年数が古くエレベーターの無いマンションなどもあり、ゴミ出しや、通院などの生活課題も多い。坂道の多い地形で住宅街に入ってしまうと、バスも通っておらず、最寄りの電車の駅までも遠いため、前に述べたマンションの方と同様に、買い物、通院などの生活課題が表面化している。

南部は主にアパート、文化住宅、連棟、戸建ての住宅が密集している。高齢化率と合わせて独居率も高い。その地域に長く暮らす方が多く、隣近所との付き合いも多く、顔見知りの関係は構築できている。経済面での課題や住まいに関する困りごとが顕在化しており、民生委員、福祉事務所、警察などとの連携も多い。

センターの取組方針や特徴

【センターの運営方針】

・地域包括ケアシステムの構築を意識し全6小学校区ともに、地域福祉の関係者、社会福祉協議会、行政機関、多くの事業所等関係機関との有機的なネットワークづくりに取り組んでいる。

【特に力を入れて活動している点】

1. 関係機関との連携の強化

- ・ふれあいサロンへの参加、地域教室や高齢部会を全校区での開催、なんでも相談や民生委員定例会への出席、その他にも、地域での活動や会合に積極的に参加している。
- ・民生委員の方やCSWと見守りローラー作戦での個別訪問、地域の現状把握や必要な相談支援、つなぎを行っている。
- ・関係機関に積極的に出向き、双方の情報交換や共有が速やかに行われるようにしている。
- ・多世代に向けたネットワーク構築を意識し、キッズサポーター養成講座の開催や小学校やこども園、子ども食堂などにも出向き包括の広報から顔の見える関係づくりに努める。

2. 介護予防の推進

- ・通いの場づくりの支援は住民会合の場などで積極的に発信している。通いの場づくりのみならず地域で高齢者が集い、見守り見守られることができる場の必要性や介護保険に頼らない健康寿命を延ばすことなどの普及啓発をサロンや地域教室などの場面でも意識して行っている。
- ・自立支援型ケアマネジメント会議の開催や評価を丁寧に行い、関係機関や住民に自立支援の大切さを周知していく。

【活動の中での課題やその解決策】

6校区全域において通いの場の立ち上げ支援を行っているが、校区によって立ち上がりの件数に差がある。

- ⇒・身近な地域における介護予防活動の必要性を、住民の会合などの場で引き続き普及・啓発する。
- ・再度、各校区の地域の状況进行评估し、地域ごとに普及・啓発の方法を検討する。
- ・地域教室における「介護予防」は全校区で実施する。

高齢者本人以外の家族への支援や、本人を取り巻く問題が複雑化している。

- ⇒・見守りローラー作戦への参加や、高齢部会、その他の集まりを積極的に活用し、地域福祉関係者、CSW、各関係機関との連携を強化していく。
- ・地域包括支援センター職員の相談対応のスキルアップのため、研修会等への参加、随時の伝達研修を開催する。随時、ケースの共有と協議を行い、センター全員でケースの課題把握に努める。

総評

地域や関係機関との連携強化やネットワークの構築に力を入れており、独自の出前講座のチラシを作成して、積極的に地域へ出向き、包括の周知をしています。

記録については、前回の外部評価の内容を踏まえ、職員その日の動きを一括で管理するなど、分かり易いものとなっていますが、記録を全職員で情報共有したことが確認できるような工夫が望まれます。

好事例

認知症サポーター養成講座を子ども向けにも実施しています。また、緊急時の対応フロー、総合相談対応の流れが分かりやすく整理されており、かつ、事務所内にも掲示するなど効果的に運用されています。